

中心市街地活性化評価・推進委員会
第3回委員会

地域活性化のためのイノベーション
-産学公民連携プロジェクト「横浜をつなげる30人」の事例から-

2023年6月2日

横浜市立大学 国際商学部 准教授
Stanford大学 Visiting Scholar

芦澤美智子

経歴

- 1996～2001 KPMG東京(公認会計士)
- 2001～2003 慶應ビジネススクール (MBA)
- 2003～2007 産業再生機構とアドバンテッジパートナーズ
- 2009～2013 慶應ビジネススクール(Ph.D. in Management)
- 2013～2023 横浜市立大学 国際商学部 准教授
- 2022～2023 Stanford大学 客員研究員 (US-Asia Technology Management Center)
- 2023～ 慶應ビジネススクール 准教授 (戦略論/アントレプレナーシップ) (2023年9月着任予定)



研究・教育・社会貢献

横浜における地域活性化プロジェクトの立ち上げ

「NPO Aozora Factory」

「横浜街ごとキャンパス(YOXOカレッジ)」

「任意団体 横浜をつなげる30人」

「横浜オープンイノベーションプロジェクト」



イノベーション関係の国・自治体委員

JST 社会還元加速プログラム(SCORE) (大学推進型) 委員

JST SBIRフェーズ1支援委員会 委員

START事業 GTIE プログラム共同代表

「横浜未来機構」フェロー



約120人が参加したワークショップ

神奈川県で唯一、文部科学省が実施する「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に2013年度採択された横浜市立大学(横浜市金沢区瀬戸22、布船船学長)は12月13日、事業キックオフイベントを開催した。(2013-12-14)

[記事を読む](#)



その他の活動

上場企業3社、スタートアップの社外役員

ビジコン等での優勝・入賞→学生起業 StockBase

海外フィールドワーク(セブ、上海)→アジア開発銀行年次総会で学生代表

シリコンバレーの日本人女性キャリア支援コミュニティ立ち上げ



本日お伝えしたいこと

1. 地域活性化イノベーションの土台となる「越境人材」「実践コミュニティ」

- ① 越境の重要性：越境により知と知が出会う（新しい気づき）
- ② 実践の重要性：リスクを取って行動する人がいてイノベーションは起こる
- ③ コミュニティの重要性：越境と実践の困難を乗り越えるための「街の同級生」

2. コミュニティの担い手への支援が重要

- ① 予算は「ハード」につくが「ソフト」につかない
- ② 多様な担い手を繋ぎ、サステイナブルにデザインするスキルを持つ人が不足
- ③ 「ファシリテーター」「コミュニケーター」「デザイナー」の地位が未確立

3. 地域をつなぐための政府・自治体の役割

- ① 「共通言語」としての、ごくシンプルな、概念・フレームワーク作り
- ② コミュニティ担い手の、ノウハウ・エネルギー共有プラットフォーム作り
- ③ コミュニティ立ち上げ時の時限的資金の提供&正当性の付与

横浜を つなげる 30人

「横浜をつなげる30人」は、横浜に住む人・働く人・学ぶ人のための、まちづくりプロジェクトです。大企業・ベンチャー企業・大学・市民・行政などの多様なセクターから、若手メンバー30人が集って進められます。

約6か月間、横浜の未来について対話し、課題解決の計画を立て、まちに出て計画を実行していきます。

そして「仲間と協力し、横浜の未来創りへの手応えを得る」そんな体験を共有した仲間は自然と「まちの同級生」となります。

そして次の未来創りへと繋がっていくのです。

つまり「横浜をつなげる30人」は、まちづくりプロジェクトでもあり、仲間づくりプロジェクトでもあります。

https://yokohama30.com/?page_id=106



「横浜をつなげる30人」立ち上げ経緯

■横浜市のスタートアップ・イノベーション政策

- 2019年1月：「イノベーション都市・横浜」宣言（横浜市）
- 2019年6月：「スタートアップ・エコシステム拠点形成戦略」発表（内閣府・文科省・経産省）
- 2019年秋：ロゴマーク「YOXO（よくぞ）」拠点「YOXO BOX」設置&ビジョン作成開始（横浜市）
- 2020年7月：「スタートアップ・エコシステム拠点都市」に選定される（グレーター東京の一部）
- 2021年3月：「横浜未来機構」発足

■「横浜をつなげる30人」

- 2018年夏：芦澤、スタートアップエコシステム研究を開始
- 2019年春：イノベーションの土台となるコミュニティ形成に課題意識を持つ
- 2020年春：Slow Innovation株式会社と協議開始（同僚の吉永先生、横浜市にお声かけ）
- 2020年10月：第1回「横浜をつなげる30人」スタート（～2021年6月）
予算約360万円（民間ディベロッパー支援）
- 2021年10月：第2回「横浜をつなげる30人」スタート（～2022年6月）
予算約170万円（国助成事業の一部）
- 2022年10月：第3回「横浜をつなげる30人」スタート（～2023年6月）
予算約40万円（自治体助成および会費）

研究からの知見→「エコシステム」という概念

ある地域に集積した主体や要素が相互に交わりながら、
急成長スタートアップを継続的に生み出す仕組み (Spigel, 2017)

シリコンバレー
面積: 約4,750Km²
インターネット中心



<https://richtopia.com/emerging-technologies/european-startups-silicon-valley>

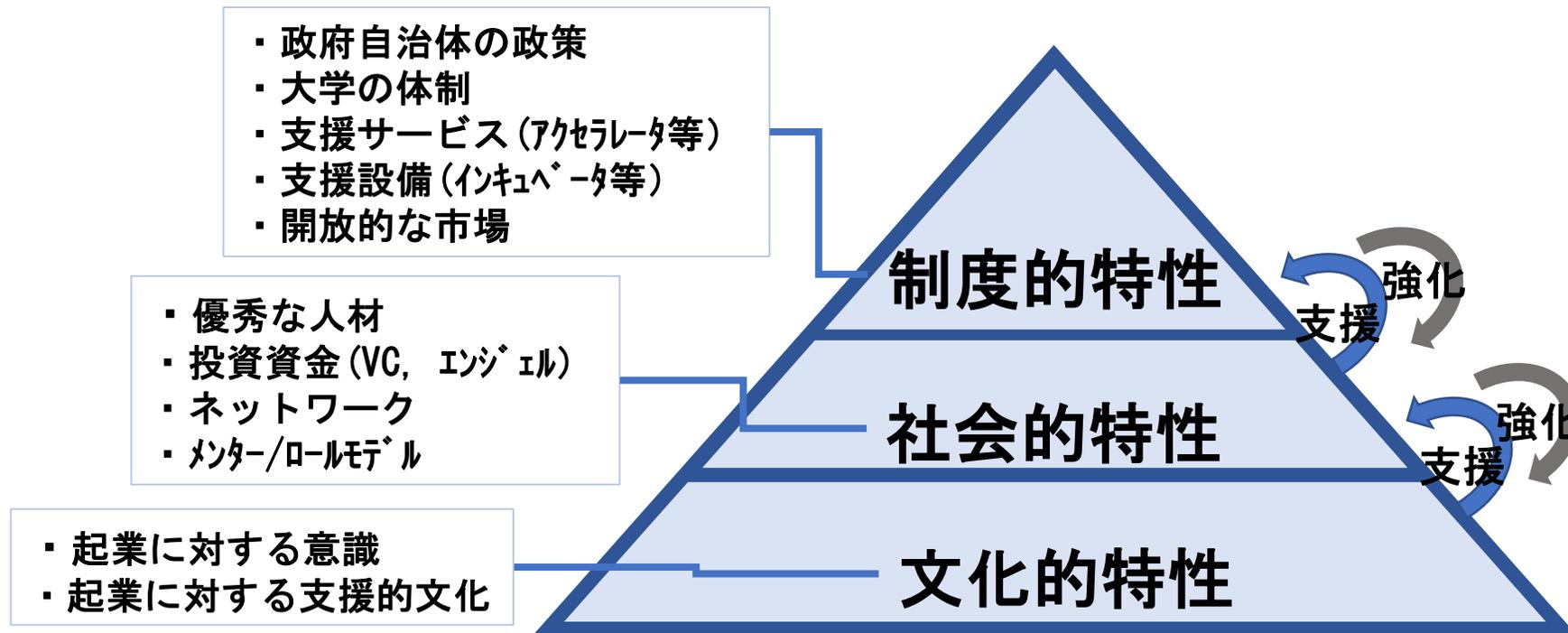
ボストン・ウォーターフロント
面積: 約5-10km²
バイオ、ヘルスケア等ディープテック中心



<https://media.dglab.com/2018/10/03-boston-02/>

研究からの知見→「三階層モデル(Spigel, 2017)」という枠組み

制度は政府・自治体がハード投資として整備が進みやすい一方で、ソフト面のインフラの担い手が未だ少ない



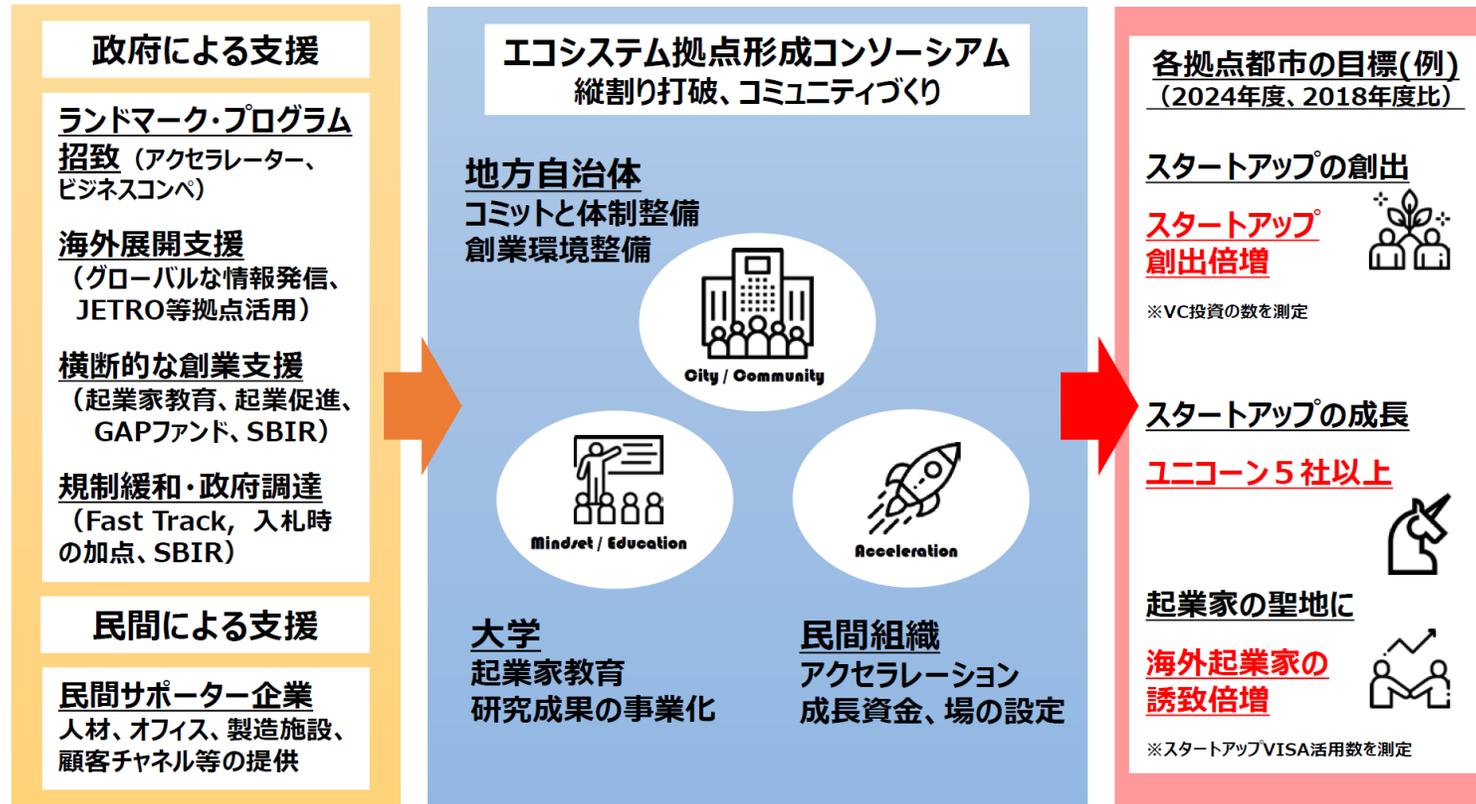
政府からの出された全体像と予算可能性のインパクト

スタートアップ・エコシステム拠点形成戦略

By 内閣府・文部科学省・経済産業省(2019年6月11日発表)

スタートアップ・エコシステム拠点都市の形成

- 地方自治体（区市町村・都道府県）と大学と民間組織（ベンチャー支援機関、金融機関、デベロッパー等）を構成員とするコンソーシアム（協議会等）に対して、「スタートアップ・エコシステム拠点都市形成プラン」を公募。
- 有識者と内閣府、経済産業省、文部科学省による選定委員会で拠点都市を選定。
 - グローバル拠点都市 2-3箇所
 - 推進拠点都市 数か所
- 政府、政府関係機関、民間サポーターによる集中支援を実施し、世界と伍するスタートアップ・エコシステム拠点に。





クロスセクターでの協創によって実現すること

1 地域/都市の未来

横浜の未来をつくる



2 企業のイノベーション活動

多様なセクターとの出会いによるイノベーションの促進



3 自治体の公民協働推進

企業や自治体とつながることによる活動拡大



4 社会課題の解決

自治体だけでは手の届かない地域課題の共創



- | | | | |
|-----|---------------------|-------------|---------------------|
| 第1回 | 令和2年10月28日(水) | 13:00~18:00 | オリエンテーション・課題の共有 |
| 第2回 | 令和2年11月11日(水) | 13:00~18:00 | 問いの設定・ブレインストーミング |
| 第3回 | 令和2年12月23日(水) | 13:00~18:00 | チーム組成・呼び込む関係者の選定 |
| 第4回 | 令和3年1月18日(月)~22日(金) | | チーム毎のオープンセッションの開催 |
| 第5回 | 令和3年2月10日(水) | 13:00~18:00 | オープンセッションの振り返りと企画構想 |
| 第6回 | 令和3年3月24日(水) | 13:00~18:00 | 関係者へ向けた企画発表会 |

※令和3年5月頃にプロジェクト活動の実践報告を予定



芦澤 美智子

横浜市立大学
学術院（国際総合科学群）
国際商学部 准教授
（アントレプレナーシップ）

横浜には開放的な海と空があって、開放的な人々がいます。そんな横浜で、クロスセクターの参加者が集まり「対話型・継続型・実践型」のイノベーション創出プロジェクトを進めてみようと「横浜をつなげる30人」を企画しました。ここで「やってみよう！」という仲間を見つけ、実際にプロジェクトをやってみて、手ごたえを感じる成功体験を得て欲しいと思っています。街で成功すると街を好きになる、そしてまた街で何かしたくなります。それが横浜の「未来を創る」に繋がっていくと思っています。皆様のご参加をお待ちしています！



吉永 崇史

横浜市立大学
学術院（国際総合科学群）
国際商学部 教授
（経営組織論）

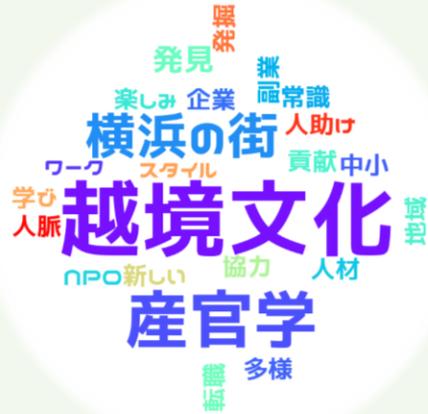
これまで横浜の地で研究・教育に携わる中で、横浜を愛する方々に数多く出会ってきました。この方々に対して、「安心できる環境の中で対話を重ねることで、信頼できる仲間に出会い、プロジェクト活動をしたり、仲間のプロジェクトの応援をしたりできる場」を提供したいと思い、「横浜をつなげる30人」コミュニティを立ち上げました。参加メンバーが「自由」になっていくこと、横浜の未来が拓かれていくことの双方が、同時に実現することを夢見ています。

ミライストチーム (第1期)



メンバーと、最初の興味

Aさん	日揮HD
Bさん	ETIC
Cさん	富士通
Dさん	三菱地所
Eさん	IT系
Fさん	横浜市役所
Gさん	建築デザイナー
Hさん	BOSH



掲げた理想と、仮説

企業や組織の壁を超えて自由に働ける街



越境を横浜の文化として作る事ができる？

各人のスキルを活かして協力し合える街



誰が何のスキルを持っているか分かると便利？

誰かの課題を皆で考えてイノベーションを生む街



自分の分野の課題で無くても活かせるアイデアは出る？

活動サマリーと今後の予定

2020/10
キックオフ

※Zoomで毎週会議を実施



2021/3 & 2021/5
ミライストラボ実施

※現在も定期開催中



2021/7
大企業人材の中小企業支援



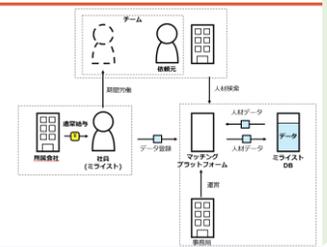
最終発表

2023/1
横浜越境アワード創設



20XX/X
ミライストギルド始動

ミライストギルド - 相関図

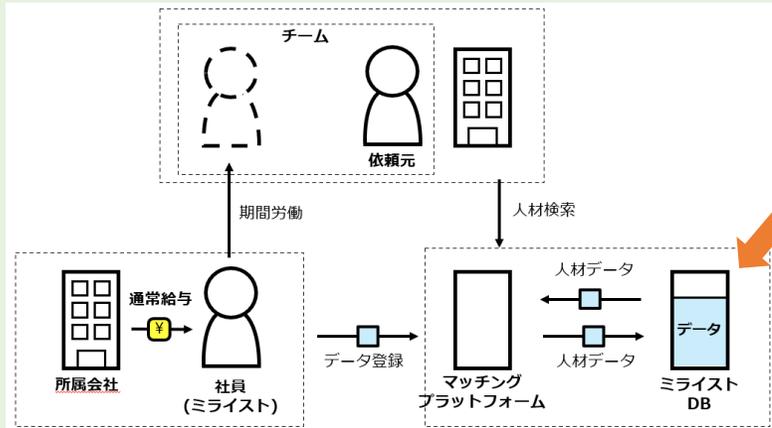


総括

仕組み作りの前に文化づくりが大切と感じ、定期的なイベント開催した結果、成果は少しずつ出てきている。今後は行政の公的支援も受けながら、認知度を上げて、「ミライの働き方ができる街ヨコハマ」を作って行きたい。

ミライストチーム（第1期）からの派生起業

起業に至った経緯



越境文化の醸成後、ミライスト活動の目標は「地域の越境マッチングプラットフォーム」の作成でしたが、その為には横浜で働く人のスキル可視化が必要でした。

しかし市販システムに「会社を超えて同じスキル分類で検索できる」ものはなく、かといって有志活動の中で新しいシステムを作るのは極めて困難でした。

そこで、ミライストチームの高野さんが地域有志団体「横濱OneMM」を中心に、メンバーを募り、スキル可視化システム「ユニクル」を副業起業しました。ミライストチームもサポーターとしてシステム開発に協力しています。

スキル可視化システム ユニクルⅡ



「検索のし易さ」を目的に一年かけて整理されたスキル分類に、経験・学習・他者からの賞賛をポイントとして習熟度を定義。

ゲーム的に自分を育てるシステムでかつ、職場で褒め合う事も促進される為に、組織力の向上もできます。

2022年度横浜市スタートアップ社会実装推進事業にも採択され、横浜市役所職員への試験導入も開始済です。

最終的に横浜エリアで広く産官学への導入を目指しています。



ユニクルとミライストでの定期的な壁打ち会
目指す世界は同じ！

多文化協働チーム（第1期）



メンバーと、最初の興味

Aさん	An-Nahal
Bさん	コクヨ
Cさん	日揮
Dさん	横浜市立大学
Eさん	横浜市



掲げた理想と、仮説

外国人材との交流をもつとハードル低くする



言語の壁を感じない場の設計ができるのでは？

多文化共生から多文化協働の街横浜へ



分断ではなく、一緒に学ぶ、一緒に挑戦する機会を作る？

楽しみながら多文化環境に飛び込む人を増やす



小さな成功体験をすることで意識が変わる？

活動サマリーと今後の予定

2020/10
キックオフ

2021/3
留学生向けキャリアイベント

2021/5
多文化協働プログラム
SHIP開催@京セラ

最終発表

2021/12、2022/2
多文化協働プログラム
SHIP第2弾、第3弾開催

2022/5
英語でアントレ講座開催
@横浜市立大学

2022/5
トヨタ財団採択
プロジェクト開始



総括

当初は多文化共生から多文化協働へをキーワードに多文化協働プログラムSHIPを開催しました。そこから発展し、英語での起業家教育、留学生と日本人ビジネスパーソンのメンタリングプログラム、外国人起業支援と事業として広がり横浜がグローバル人材と協働しイノベーションを生み出す土壌作りに今後も取り組んでいきます。

こどもの可能性Lab チーム (第2期)



メンバーと、最初の興味

- Aさん 凸版印刷
- Bさん プレイパーカー
- Cさん 京セラ
- Dさん げんてん



掲げた理想と、仮説

こどもの可能性を閉じず
に開くことができる環境

➔ 選択肢を増やすために、親の悩みや価値観を共有できる場が必要では？

従来の教育の価値観に捉われない新しい価値観

➔ VUCA時代に求められる教育の価値観は個別化していく？

こどもも親も明るく未来を信じられる社会

➔ 子育てや教育には多様性がもっと必要なのでは？

活動サマリーと今後の予定

2021/10
キックオフ

※Zoomで毎週
会議を実施

2022/3/15
第一回「こどもの可能性について考える価値観共有座談会」を実施！

2022/6/24
こどもとおとなのバディプログラム提供のWe are Buddiesさんとコラボイベント！

最終発表

2022/12/24
こども自転車教室を通じて居場所創りや社会性を育むプログラムを提供しているブラッキーさんとコラボイベント！

Coming Soon!
2023/6/27
臨床心理士ふじパパさんを迎えてのこどもの気持ちに寄り添う子育て対談



「こどもの可能性」について考える価値観共有座談会

横浜を30A こどもの可能性Lab 主催

子育てをしていて迷うことはありませんか？
今回は主に4〜6歳の子育てを軸に、子育て世代を対象に「こどもの可能性」をテーマに、目標を掲げているお父さんをお招きし、子育てに関する多様な価値観に触れられる機会を創ります。お気軽にご参加ください！

- 日時：2022年3月15日(火)21:00-22:00
- オンラインzoomにて開催
- テーマ案の中から数名でセッション 顔出しなし、匿名参加OK

当日のテーマ

- ①子どもの欲・夢・どうやって決めた？いつまで続けさせる？
- ②子育てでの価値観「パートナーとの違いはある？目標を達成する時は？乗り越え方は？
- ③デジタルと付き合い方：デジタルネイティブとはどう違う？、小さい頃からどの程度まで触れさせるのがよいのか、みんなどうしてる？

子どもとおとなの新しい信頼関係が創り出す「子どもの可能性」

We are Buddies × こどもの可能性Lab

子どもとおとなのバディプログラムを提供している、We are Buddiesが主催のイベントをお知らせし、実際に体験も行うプログラムを、こどもとおとなの両方から参加していただきます。

2022
6/24
Fri
20:30-22:00
@zoomオンライン

Wielerschool Japan × こどもの可能性Lab

自転車教室を通じて、こどもの社会性向上と居場所創りの可能性

「こども」世代の自転車教室プログラム「Wielerschool」も提供している、ブラッキーさんと連携して、自転車教室を通じて、楽しく自転車も楽しめるプログラムを、こどもとおとなの両方から参加していただきます。

2022
12/14
Wed
21:00-22:15
@zoomオンライン

ゲストスピーカー
藤原 勇輝さん
臨床心理士

横浜を30A こどもの可能性Lab
オンラインイベント

「こどもも親も明るく未来を信じられる社会」

こどもと私の気持ちに寄り添う子育て

「こどもと一緒に遊んでみたいけどどうしたらいい？」
「自分の子どもはママさん？」「子育てしている人ってどう？」
など、子育てに関する悩みや疑問、子育ての気持ちに寄り添うための対談を行います。お気軽にご参加ください。子育てのヒントを掴んでください。

2023
6/27
Tue
20:30-22:00
@zoomオンライン

※「価値観共有座談会」はオンラインで価値観や悩みを共有する場として毎月定期開催 (全11回)

総括 子育て世代の多様な価値観に触れることで、自分の子育てへの示唆や悩みを緩和することができたとお声をたくさんいただきました。今後は、こどもとリアルで学び合うことも含め、より多くの子育て世代に活動を届けていきたい。

チームままmaioka (第2期)



メンバーと、最初の興味

- Aさん タウンニュース
- Bさん 横浜市役所
- Cさん 元銀行員/今ベンチャー
- Dさん ファンケル



掲げた理想と、仮説。《まずは、舞岡公園を活動フィールドに！》

身近な都市自然を次世代につなげたい

自然保全に関わる担い手が地域から生まれてくる好循環

ヨコハマモデルを創造し発信したい

➔ 運営管理の担い手不足が最大の課題では？

➔ 先人(既存組織)に敬意を払い、関わり合うみんなで「未来宣言づくり」を!!

➔ 横浜市など行政と連携し、運営事業者同士のヨコ連携が必要!!

活動サマリーと今後の予定

2021/10
キックオフ

2022/1
運営NPO法人と
初対面

2022/3
園内インタビュー
実施

2022/4
NPO理事会へ
協業申入れ

2022/6
30周年記念事業として
協力要請を受け、協業開始
最終発表

2022/7
日本生態系協会から
採択

2022/11
横浜市市民局から
取組支援

※ワークショップ形式で
10回超

未来宣言づくり
参加者のべ200名超

2023/3
未来宣言完成
NPO30周年誌に掲載



総括 先人の苦勞に敬意を払い、現場の共同野良作業を通じて信頼関係を高める。地域社会の環境変化の中で、これまでの社会インフラと新しい取組みを融合させてこそ、イノベーションは持続可能になる。自然保全活動にソーシャルを!!

Why Yokohamaチーム (第2期)



メンバーと、最初の興味

Aさん	Yocco18
Bさん	京セラ
Cさん	Yocco18
Dさん	PFU
Eさん	慶應義塾大学大学院
Fさん	JR東日本
Gさん	崎陽軒
Hさん	横浜ベイシエラトン
Iさん	横浜市役所



掲げた理想と、仮説

他の都市にない尖った魅力のある横浜に。

他の都市に比べて何か物足りない？



今の横浜をもっと楽しんでもらいたい。

「華やかし頃のヨコハマ」で時間が止まっている？



横浜のオリジナルティを大切にしたい。

横浜の魅力を十分に活かされていない？



活動サマリーと今後の予定

2021/10 キックオフ ※Zoomで毎月2~4回会議を実施

2022/1/26 オープンセッション。さまざまな視点から横浜の魅力・課題について議論。

最終発表

2022/9/10 鉄道開業150周年をテーマに横浜市立大学のエクステンション講座を開催。

2022/9/23 「CROSS STREET DREAM Fes 横浜と各地をつなぐ！」でメンバーが連携！

引き続き、チームあるいはメンバー間の連携によって横浜の尖った魅力の深掘り・発信！

メンバー紹介：横浜30-Why Yokohamaのご紹介

参加者自己紹介：パネラーのご紹介

- ① 横浜商科大学准教授 ② 横浜市保土ヶ谷区 ③ 生まれからですが、横浜での主な活動は2011年ごろから。
- 秋山 友志 准教授
- ① 文化観光局長横浜魅力づくり室企画課 ② 東京都武蔵村山市 ③ 現在：1度〜本格的には市役所入庁(平成13年)後
- 貝田 泰史 准教授
- ① 横浜国立大学名誉教授、川崎総合研究所代表 ② 横浜 ③ 弘明寺のお蕎麦屋さんにとりあげられた1956年、0歳のときから
- 川添 裕 名誉教授/代表
- ① 株式会社JTB横浜支店 観光プロデューサー ② 横浜市南区 ③ 生まれも育ちも横浜です。観光振興に係る業務は2014年からとなります。
- 小泉 健司 准教授



2022年9月23日(金・祝) CROSS STREET DREAM fes3 「横浜と各地をつなぐ!」+横浜(Yocco18)の歌 伊勢佐木町CROSS STREET

13:00~13:30 のんとみっつい
13:40~14:10 TOKO(大阪)
14:20~14:50 SaltyDog(大阪)
15:00~15:35 終末のパンギア。
15:45~16:10 K.KING(神戸)

開場12:50 入場¥1000

パンギアのステージで Yocco18の歌も唄るよ

※入場人数制限あり ※予約推奨(各バンドへ)



総括

9名と大所帯のチームだったこともあり、各メンバーの想いとリソースをどのように活かしていくか試行錯誤が続いた。最終的に鉄道開業150周年という、横浜ならではの、かつメンバーのリソースも活用できるテーマで横浜市立大学のエクステンション講座を実施することができた。今後も横浜ならではの尖った魅力を探究し、その発展に寄与していきたい。

HAPPY MONDAYチーム (第2期)



メンバーと、最初の興味

Aさん	三菱UFJ銀行
Bさん	KDDI株式会社
Cさん	ぴあ株式会社
Dさん	慶應義塾大学大学院SDM研究所
Eさん	東日本旅客鉄道株式会社
Fさん	富士通コワーコ株式会社
Gさん	株式会社横浜銀行



掲げた理想と、仮説

大人になることに希望を持つ子供を増やす街。



子供も大人も両方経験している大人がワクワクしている必要がある？

子供が将来に希望を持つための体験をつくる街。



子供がワクワクしている大人と交流を深め、成功体験を重ねることが重要？

子供とともに、大人をワクワクさせる街。



一般的に大人がウツと思いやすい月曜日をワクワクさせる？

活動サマリーと今後の予定

2021/10
キックオフ ※毎週会議を実施

2022/05
子供が大切な人を笑顔にさせる応援をするための母の日ワークショップと、大人が本気で夢を語るトークセッションを開催

2022/7
世代間交流を促すライブステージづくりを子供からシニアまで協力して行い発表

2022/12-3
初対面の子供と大人で夢を語り、願いを込めてスノードームをつくるイベントを開催

2023/6
月曜日が心から辛い大人を子供がワクワクさせる仕組みづくりに挑戦中。



総括

子供とともに大人をワクワクさせるイベントを開催した結果、共感と感謝の言葉を多くいただくことができた。今後は単発のイベントだけではなく、「子供も大人もワクワクする街ヨコハマ」を仕組みとして作っていきたい。

パフエ部 (全期横断)



メンバーと、最初の興味

Aさん	コクヨ
Bさん	An-Nahal
Cさん	Code for Japan
Dさん	横浜市役所
Eさん	SHIN4NY Inc.
Fさん	資生堂



掲げた理想と、仮説

繋げる以前に自分たちが繋がっている状態



「食」は人と人とを繋げる最強のツール

型にはまらないスタイル



まじめに取り組むだけじゃダメ
「楽しさ」「ゆるさ」も必要！

メンバーはみんな「街の同級生」



NG: 「カタガキ」で繋がる
♡: 「好き」で繋がる！

活動サマリーと今後の予定



総括 楽しくワイワイしていると自然と人は笑顔になるし、そこに集まる人のエネルギーが活気ある街づくりに貢献していくのだと思います